

令和2年度 文京区立明化小学校 授業改善推進プラン

第6学年2組

	児童の実態	指導のめあて	具体的な授業改善の方法	2学期評価	3学期評価
国語	<p>○文章から内容や情報を読み取る力は身に付いているが、それに対する考えや要旨をまとめる力はまだ不十分である。</p> <p>○漢字テストの点数は全体的に高いが、日常的に既習の漢字を使っている児童は少ない。また、はねやはらいなど漢字の細かな部分の定着が浅いと感じる場面がある。</p>	<p>○相手が伝えたいことや大事な情報を落とさずに聞く力を身に付ける。</p> <p>○読み手を意識して、伝わりやすいよう書く力や話す力を身に付ける。</p> <p>○漢字練習において、字形・筆順や間違いやすい部分に着目できるような指導の工夫を行うとともに、習った漢字を日常的に活用する場面を増やす。</p>	<p>○友達の話や発表内容について、聞く時の観点を示し、何を意識して聞くのかを意識させる。また、互いに発表したことを振り返ることで、聞き方や話し方への振り返りを行う。</p> <p>○漢字学習ではそら書き・なぞり書きをくり返し行うことで字形や筆順を正しく習得させる。また、普段から文字を丁寧に書くことを指導し、毎日の積み重ねを大事にする。さらに、家庭学習との連携も図っていく。</p>		
社会	<p>○学習に対する基礎的な知識は概ね身に付いている。一方でたくさん資料から必要な情報を見つけたり、それをもとに課題解決をしたりできる児童は少ない。</p>	<p>○資料を効果的に読み取るという力を育て、課題に対して広く深く考察することができるようにする。</p>	<p>○資料の読み取り方について丁寧に指導するとともに資料から分かったこと、気付いたこと、思ったこと等を書く活動を増やし、交流させることで互いの気付きや考察を深める。</p>		
算数	<p>○既習事項の定着に差がある。</p> <p>○問題文を読み取り、正しく立</p>	<p>○教科書の内容を確実に理解できる児童を育てる。</p> <p>○演算決定の根拠を自分の言葉</p>	<p>○習熟度別少人数指導を通して、苦手な児童に対して細やかな支援を行う。また、必要があれば時間外の個別指導を行う。</p> <p>○東京ベーシックドリルを活用</p>		

	式することに課題のある児童が多い。また、立式できる児童についても、その根拠を言葉にして説明することに課題がある。	で論理的に表現できるようにする。	して児童の習熟度を把握し、それに応じた指導の工夫を行う。 ○自分の考えを図や絵、数直線などを用いて表現したり、説明したりといった数学的活動を授業内で取り入れるようにする。		
理科	○実験や観察に興味・関心をもって学習に取り組む児童が多い。 ○実験結果をもとに、より妥当な考えをつくり出すといった問題解決の力が課題である。	○自ら立てた仮説を検証するための実験方法を考える力を育てる。 ○自分の仮説と実験結果を照らし合わせて、実験から分かったことを自分なりの言葉で表現する。	○児童が学習内容について疑問をもつような実験や資料の提示を行い、自ら立てた仮説を検証するために「何を調べるかを」意識しながら、実験方法を考えるように指導する。 ○友達と考察を交流させ、より妥当な考えを全体で作り出す場を設けていく。		
体育	○体育に関する興味・関心は高く、積極的に運動する児童が多いが、苦手としている運動では意欲が低くなってしまいう児童の姿が見られる。 ○走る運動、ボール運動、水泳等、基本的な運動の定着に差がある。	○自己のめあてをもち、振り返りを行うことで、自身の動きを修正したり、運動に対する理解を深めたりすることができる。 ○運動が苦手な児童が安心して学習に取り組めるように、協力しながら互いを認め合う姿勢を育てる。	○チームプレーの場合、めあての実現の方法や、個々の役割等を具体的に考え、チームで振り返りながら評価させる。 ○基本的な動きを自ら体得させるために、個々にめあてをもたせるとともに、グループで互いの動きを観察し、意見交換させたり相互評価させたりする。 ○個々のめあてに合った学習ができているか、様子を観察し、賞賛、励まし、支援等を行う。		